

クルリンと ほしぞらさんぽ 3月号



伊勢原市公式
イメージキャラクター
クルリン

もうすぐ5年生

このごろ昼が長くなったなと感じませんか。11月から1月ごろまでは防災無線のチャイムが鳴るころにはもう暗くなっていましたが、このごろはまだ「夕方」の明るさの中で「夕焼け小焼け」を聞くようになりました。どうしてでしょう？ 説明できますか。こんな日常にも宇宙の不思議がありますね。

1年間ほしぞらさんぽを続けました。5年生の理科には宇宙の勉強はありませんが、ほしぞらさんぽは続けてくださいね。

散開星団を見よう おうし座

冬の代表的な星座・おうし座にある**プレアデス星団**は、ごちゃごちゃと星がつまっていて、肉眼では6つの明るい星が見分けられます。

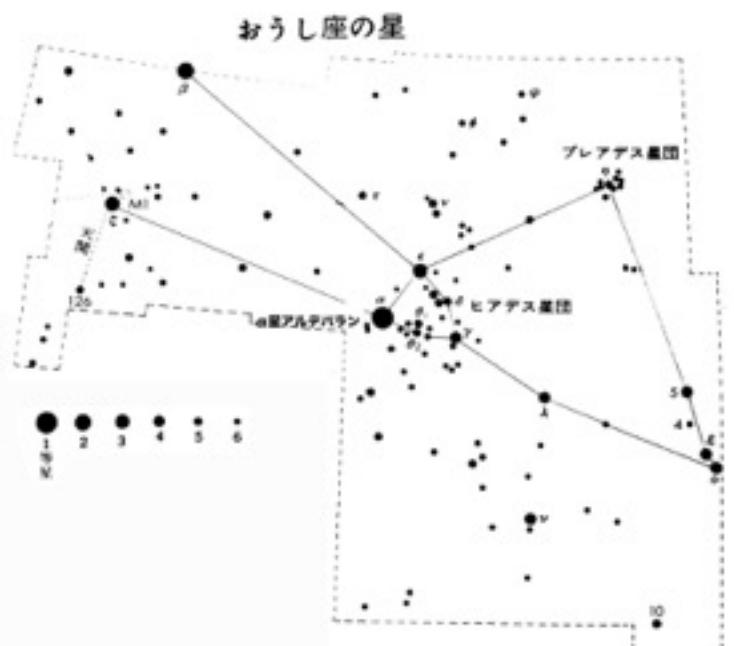
日本では昔から「すばる」と呼ばれて各地で親しまれてきました。今でも空を見上げると「あれ？ なんだろう」と思わせる天体ですから、昔の真っ暗な夜空ではひときわ美しく見えていたことでしょう。双眼鏡で見るともっと細かい星も見えて、星がいっぱい集まっている散開星団だとわかります。望遠鏡では視野からはみ出してしまっただけの星にしか見えないので、双眼鏡で見るときが一番美しく見えます。

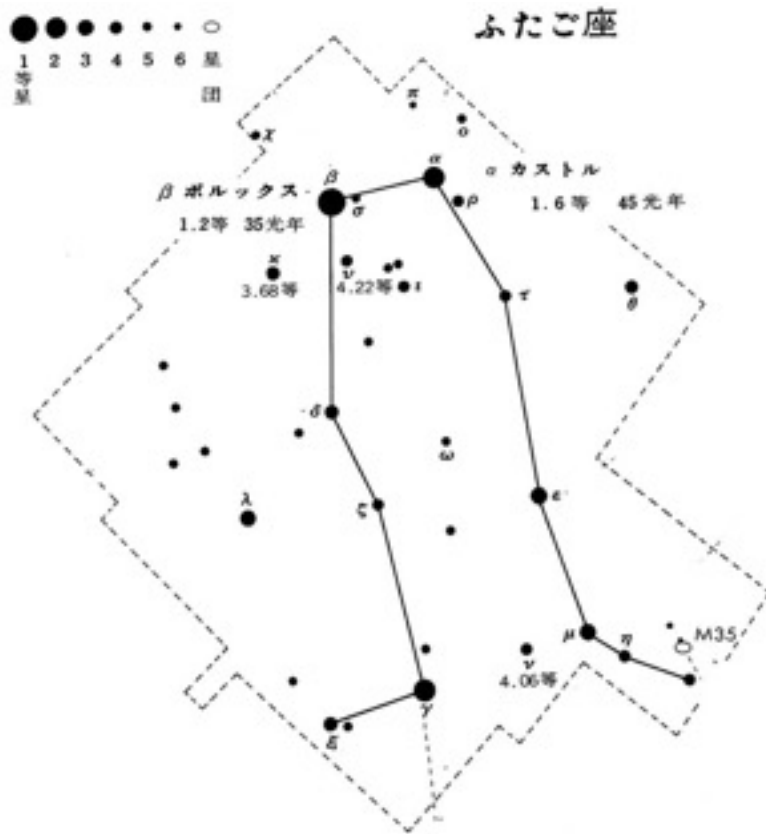
「すばる」は宇宙の大きなガスのかたまりから6000万年ぐらい前に誕生した星たちで、地球から

約440光年離れたところにある兄弟の星々です。宇宙の時間スケールでは「生まれたばかり」ですから、星の材料だったガスの残りがまだ星々の周りを取り囲んでいます。望遠鏡で写真を撮ると青く美しくかがやいています。下の写真はクルリンがとりました。

おうし座にはもう一つ散開星団があります。おうし座の α 星アルデバランのすぐそばにいくつかの明るい星々が見えている、**ヒアデス星団**です。「すばる」と同じようにして生まれた散開星団なのですが、年齢は6億年ぐらい。距離150光年ぐらいと「すばる」よりもずっと近いので、すきまがあいて散らばって見えています。やはり双眼鏡で見るのが一番。

おうし座の α 星1等星のアルデバランは、距離65光年、星の半径は太陽の40~50倍もあろうかという巨星ですが、表面温度は4000度と低いので赤っぽく見えているお年寄りの星です。太陽は6000度ぐらいなので黄色く見えていますね。





散開星団を見よう ふたご座

ふたご座は今天頂付近にいますから観察しにくいですが、がまんして見上げてみましょう。双子の兄カストルの足元に**メシエ**番号**M35**の散開星団があつて、双眼鏡でちょうど見ごろです。真っ暗な空ならば肉眼でも見えるはずですが、距離は2850光年、遠いので一つ一つの星が小さく見えています、すばるより大きな散開星団で、500個ぐらいの星がかたまっているようです。

ISS (国際宇宙ステーション) が見えるかも？

3月17日の18時54分ごろ、南の空を西から東へ動いていく光の点が見えるかもしれません。見つけたら双眼鏡で見てみよう。

